

平成29年度第2回刈谷市総合教育会議 議事録

- 1 日 時
平成30年1月25日（木）午後4時10分～午後5時10分
- 2 場 所
刈谷市役所 701会議室
- 3 議 題
(1) 主な平成29年度事業の進捗状況について
(2) 意見交換 テーマ「教員の資質向上について」
- 4 出席者
市 長 竹中 良則
教育委員会 教育長 太田 武司
教育委員会 委員（教育長職務代理者） 池田 裕幸
教育委員会 委員 神谷 修
教育委員会 委員 畠 留美
教育委員会 委員 石田 芳加
- 5 欠席者
なし
- 6 会議構成員以外の出席者及び事務局
企画財政部長 清水 一郎
教 育 部 長 宮田 俊哉
企画調整監兼企画政策課長 岡部 直樹
教 育 総 務 課 長 加藤 幹雄
学 校 教 育 課 長 木野 昌孝
企画政策課 課長補佐兼政策推進係長 二井 直樹
教育総務課 課 長 補 佐 高野 洋
学校教育課 課長補佐兼学事・保健係長 加藤 重行
教育総務課 総 務 係 長 神谷 友理
企画政策課 主 事 （ 書 記 ） 青山 景子
- 7 傍聴人
0名

(企画財政部長)

定刻になりましたので、始めさせていただきます。企画財政部の清水でございます。皆様におかれましては、大変お忙しい中、刈谷市総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。それでは、只今から平成29年度第2回刈谷市総合教育会議を開会させていただきます。会議に先立ちまして、市長よりごあいさつを申し上げます。

(市長)

改めましてみなさんこんにちは。2回目の総合教育会議ということで、ちょっと開会が遅れまして申し訳ございません。実は急遽、ベトナムから国土交通省の副大臣がお見えになっておりまして、刈谷ハイウェイオアシスのご紹介をさせていただいておりました。実は去年の4月にもホーチミンの方が、やはりハイウェイオアシスを視察されました。なぜベトナムの方々はこんなに刈谷のハイウェイオアシスに何度も足を運んでくださるのかと疑問を抱いておったのですが、実はベトナムはご存知のとおり戦争終了後、国づくりを大変スピードアップをしてやってみえまして、その資金のほとんどがODAといういわゆる国の借金だそうです。それが今たまりにたまって、少し梶を切りなおさなければならない状況にあるそうです。そこで民間活力の活用を考える中でのモデルケースとして、官民連携してこれだけ多くの集客、売り上げを上げ、活気づく刈谷ハイウェイオアシスをぜひ視察したいということで、何度もお見えになられているわけでございます。これからも東南アジアあるいは、アフリカなど様々な国のモデルとなるような施策が打てていけば大変ありがたいなと思っております。

さて、関東地方に続き、昨日はこの東海地方も大寒波ということで、まだまだ寒さが続きます。学校からの報告によりますと、だいぶインフルエンザが各教室、各学校で流行ってきているようございまして、現場の方には徹底して、子どもたちの健康管理にご尽力いただきたいと思っております。

そしていよいよ冬が明けますと、春がやってまいります。そうしますとやっとな願の特別支援学校が4月に開校を迎えます。「ともに学び、交流し、理解し合う」という基本コンセプトのもと、普通学校に併設した特別支援学校の特色をこれから発揮していければと思っております。

第2回目の総合教育会議、きょうは後半の会議となります。刈谷市のために、いろんなご提言をいただきますことをお願い申し上げまして、あいさつに代えさせていただきます。よろしく願いいたします。

(企画財政部長)

ありがとうございました。それでは、次第に従いまして議題に入らせていただきますが、これより議事の進行は市長にお願いしたいと思います。

(市長)

それでは私の方で議事を進行させていただきたいと思っております。皆様のご協力を得まして、円滑に議事を進行してまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。まず、議題(1)「主な平成29年度事業の進捗状況について」、事務局、説明を願います。

(教育総務課長)

それでは、平成29年度、主な事業の進捗状況を説明いたします。

資料1をご覧ください。昨年5月25日開催の第1回総合教育会議で説明しました事業について、まず、「知」確かな学力の定着では、少人数授業充実事業の実施があります。全小学校の国語、算数の授業で実施し、児童一人ひとりにきめ細やかな指導を行った結果、本年度の全国学力・学習状況調査において本市の小中学生の学力の結果は、全国や県の平均正答率を上回っており、小学校・中学校ともに成果をあげています。特に中学校は、小学校での基礎づくりが、しっかりとできていると考えられ、国語・数学ともに大変よくできております。

また、理科観察実験支援事業や理数大好き推進事業では、実験観察アシスタントの派遣や理科研究補助を実施した中、本年度のソニー子ども科学教育プログラムでは、理科の授業を中心とした取組が評価され、刈谷南中学校が最優秀校に、富士松南小学校、小垣江東小学校の2校が優秀校に選出されました。その他にも、創意工夫育成功労学校賞において、雁が音中学校が文部科学大臣表彰を、日本学生科学賞においても、富士松中学校が全日本科学教育振興委員会賞を受賞しております。

「徳」豊かな心の育成では、学校司書配置事業において、北部地区、中部地区、南部地区に各1名の学校司書を配置しました。学校司書は、地区内の小中学校を巡回しながら、各校の図書ボランティアの方々と連携して、図書館の整備を実施した結果、子どもたちからは「使いやすい図書館になった」などの感想を聞いています。他には、東吉野村文化交流事業を実施し、今年度は10月に1泊2日で衣浦、富士松南、朝日小学校の6年生が東吉野村を訪れ現地の方と交流を行い、天誅組を通じて江戸末期の歴史を学びました。

「体」健やかな身体づくりでは、部活動指導者活用事業の実施により、各分野に優れた25名の外部指導者から指導を受け、部活動の活性化を図りました。この外部指導者は、各中学校から推薦のあった方を採用しており、弓道や剣道をはじめ、陸上、野球、サッカー、ソフトテニス、バレーボール、卓球と様々な種目で指導を受けております。その中で、弓道や剣道においては技術の向上はもとより、礼儀作法といった精神的分野においても正しく指導を受けることができました。

「環(わ)」学習環境の整備・安心安全の確保では、小垣江東、小高原小学校、依佐美中学校の大規模改造工事の実施により、きれいな教室や新しい設備の中で学習に取り組むことができました。また、刈谷東中学校の中南舎の建て替え工事は、昨年9月、2学期から新校舎の使用を開始しました。

次に、空調整備事業は大規模改造事業を実施した校舎と中学校の普通教室等にエアコンを設置し、教室環境の向上が図られています。

特別支援学校建設事業は、一部の外溝工事を除き、工事は無事完了しました。なお、現在4月の開校に向けて備品の設置を進めています。

最後に、第一学校給食センターは、昨年9月4日から稼動を開始し、1日約8千食の給食調理を行っています。

以上、簡単ではございますが、議題1主な平成29年度事業の進捗状況についての説明を

終わります。

(市長)

はい。ありがとうございます。進捗状況についてお話をさせていただきましたが、この中でご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

(島委員)

第1学校給食センターに関してですが、以前に小垣江東小学校にお邪魔した際に、第1学校給食センターが新しくできて稼動してから、少し残飯とかのにおいが気になるということを校長先生からお聞きしまして、それに関して何か対策や、現在分かることがありましたら教えていただきたいと思います。

(教育総務課長)

その件につきまして、給食を回収した後、洗浄するときの湯気などが廃棄ダクトを通じて体育館のほうへ流れていくことが原因と突き止めました。

改善策としては、流れていく方向を伸ばして高くし、反対側に向けることで、においが届かないように今対策をしております。よろしく願いいたします。

(教育部長)

風向き等もありまして、やはり夏の南風ですと、ちょうど校舎が南側に建っておりますので、どうしてもにおいがくることがございますが、冬は北風がありますので、おそらく大丈夫ではないかなと思っております。季節もありますので、また来年度になってからもご意見をよくお聞きして、できるかぎりの対策をしていきたいと考えております。

(神谷委員)

29年度の予算執行額がそれぞれ提示されておりますが、思ったより執行額が下回った事業、逆に思ったよりかかりすぎた事業をもし把握されていたら、教えていただきたいのですが。

(教育総務課長)

こちらの執行率につきましては、12月末現在の数値でございますが、まだこれから執行していきますので、執行率50、60%のものはこれから上がっていく予定でございます。

また、予算の下で事業を行っておりますので、それを上回り、不足して補正予算を組むというようなものは、今回はございませんでした。予算の範囲内で事業を実施しております。

(石田委員)

2ページですけれども、学校司書配置事業について少し質問させていただきます。私実際に図書ボランティアをさせていただいておりますが、学校司書さんとも、お話させていただいております。そこで、司書教諭という方がいらっしゃるしまして、私たちボランティアと司書の間に入っ

て取り持っていていただいております。そのためボランティアと司書教諭が直接話して進めていくこともたくさんあります。その点において、3年ほどかかって、今年初めて学校司書さんが3名入られたということをお聞きしております。北部・中部・南部に各1人ずついらっしゃるのですが、学校の先生の負担、たとえば授業に図書を使いたいから中央図書館から取り寄せたいけれど時間がない、そして他の授業は進めなくてはならない、司書教諭が担任を持っている場合さらに苦しい状況に追い込まれていくということを、わたくし今年度に思いました。図書ボランティアの代表を一昨年前かららせていただいているのですが、やはり2年の間そういう状況は続いておりまして、決して楽になるものではなく、ボランティアのほうで助けられることは手助けをさせていただいております。そんな中で司書さんとお話をさせていただいたのですが、そのときにもやはり、学校の先生の負担が気の毒という、司書さんからのご意見がありました。そのため、私たちが見ている、もう少し図書室を活用していただくにはやはり司書が重要だと思いました。中部・北部・南部それぞれ中学校2校、小学校5校あり、一人で回るのはかなり負担がありまして、そして行き届いた、まだ司書のいい面を全て出せていないということが現状で分かっております。ですから、ぜひ直実に増員をしていただくようお願いできればということでご意見させていただきます。よろしく申し上げます。

(学校教育課長)

学校教育課の木野でございます。学校司書につきましては、今年度、念願でやっと3人就いたというそういう状況であります。現段階では、学期ごとに司書の方と情報交換をしながら、司書さんが就いた成果をしっかりと見極めていきたいと思っております。どうゆう点でいいのかということを確認をしていき、その後さらに必要ということであるならば、それをいろんな学校の校長先生やいろんな先生方と検討して、話し合っ進めていきたいと思っております。司書を3名付けていただいたというのは、他市の詳しい現状はわかりませんが、この小学校5校と中学校2校、主に小学校を中心に司書さんに回っていただいていると思っておりますので、5校に1人就いているというこの状況は、付いてないゼロからと見るとかなりプラスになったのではないかとこの評価を学校教育課からというよりも、学校現場からもいただいております。この成果をしっかりと見極めて、今後、子どもたちの授業との連携につきましても、図書の教科指導員がおりますので、教科指導員とどのように図書館と連携をしながら授業をやっていくか、ということを検討していきたいと思っております。また、公にはなっておりませんが、いわゆる学校図書館というものは、今は学校だけのものという考えですが、将来的には学校の生徒だけが使うものではなく、いわゆる中央図書館のような、広い意味で図書館の考え方もあるべきじゃないかなという話が一般論として国のほうでされているということをお聞きしております。そのため現在は国の動向を注視しつつ、今の段階といたしましては、まずはこの3人の司書さんを有効活用してしっかりと成果をあげたいというそういう思いであります。以上でございます。

(石田委員)

まだ初年度ということで、1年経っておりませんので、そんな点もあると思っております。これから

も私はボランティアとして、司書さんや学校の司書教諭の方と協力していきたいと思います。

(池田委員)

5 ページの特別支援学校についてですが、素晴らしい施策、素晴らしい施設ということで本当にありがとうございます。

そこで、刈谷市は当然いろんなところで周知等をされているかと思いますが、今回、知立、高浜など、周辺の方に PR と言うか、そういう機会のご紹介というような周知はどのようにされておられるのでしょうか。あと、そういった周辺の市からの応募はどのくらいあるのか、参考までにお聞かせいただきたいと思います。

(教育総務課長)

来年の見込みをまず説明させていただきますと、刈谷の子が 15 名、知立、高浜は偶然ですが 7 名ずつ、トータル 29 名で今のところスタートを予定しております。PR と言いますと、保護者説明会を刈谷だけではなく、知立、高浜の教育委員会を通じて、知立、高浜の方にも案内をさせていただいておりますので、そういったところで PR になっているのではないかと思います。

(市長)

刈谷の教育委員会が主体でやっているということか。

(教育総務課長)

刈谷が主体となって、一つの場で説明会をやっております。ただし、受付等は各教育委員会を通じて申し込みをしていただいておりますので、刈谷だけが担当で動いているという状況でもございません。そういうふうで連携してやっております。

(市長)

他市は 7 人ずつということだが、予想と比べるとどう？ 70 人の定員のところ、刈谷が 15 人、他が 7 人ずつというのは。

(教育総務課長)

やはり転校等いろいろあるものですから、最初は 30 人程度じゃないか、ほぼ予定どおりということで考えております。

(市長)

いろいろご意見いただきましてありがとうございました。それでは意見交換のほうに移らせていただきたいと思います。今日は、「教員の資質向上について」というテーマが上がっております。皆様方のご意見がいただけたら大変ありがたいと思います。では池田委員からお願いします。

(池田委員)

昨今新聞報されまして、教育長先生も大変苦慮された事案として刈谷市の中学校の先生の不祥事のことがございました。

全国的にも教職員の方のそういった事案が大きく取り立たされることもあります。こういったことはぜひとも不祥事の防止に向けて、わたくし共も考える機会とし、今回、教職員の方の資質向上にぜひつなげていきたいとこのテーマについてご提案させていただきたいと思う次第であります。

この問題は従来ですと、「気を付けよう」とか、「心がけよう」とか、「ちゃんとやろう」という、そういったことでやってきて、それはそれできちっとできておったわけですけども、これからはそういった心がけとか、そういった指導だけでは機能していかないってことは、わたくしも一組織人として感じております。先生方については、一層このようなことへきちんとは対応していくことが必要だと思います。地域の方の信頼、あるいは保護者の方の信頼、一度失うとそういったもの取り戻すことは非常に期間も時間もかかりますので、ぜひともそのようなことが無いようきちんとは対応をしていただきたいと思います。

今回の刈谷市の件については、教育長先生を先頭にいろんな対応をされたと伺っておりますけれども、こういったことが二度と起こらないように、再発防止をしていくためにも、こういったことを今後どのような仕組みで防止していくのかということについて今一度意見交換で提案し、先生方の不祥事防止の件についてぜひともご検討いただけたらと思った次第であります。

(島委員)

私はやはり精神面というか、精神論みたいな話になると思いますが、やはり教師は子どもたちのお手本でありますので、資質としては、大変多くのことになると思うのですが、わたくしは教師の資質として、子どもたちに寄り添って成長を支えることに喜びや情熱を持って取り組む姿勢というふうに望みます。いろいろな場で先生方にお会いしてお話を聞くときに、やはりどの先生方も「以前、子どもたちはこうゆう風だったけど、今はこんなことができるようになったよ」とか、「こんな頑張った取り組みができるようになったよ」ということをとても嬉しそうに、喜びを感じながら話してくださる姿が印象に残っております。そういった姿がやはり教師のあるべき姿ではないかなと日ごろ実感しております。

現状として先生方を取り巻く環境というのはこくこくと変化しております、求められることもどんどん増えていると思います。先生方の仕事も、非常に多岐にわたり、多忙極まりないというのが現状だと思います。だからこそ、子どもたちに目を向けて、寄り添い成長を支えることに使命感あるいはそこに傾ける情熱を持ち続けていただくこと、そういうことが大切ではないかなと思います。学校訪問や研究発表会などいろいろな場に私たちは参加させていただきまして、刈谷の先生方が本当に現状に即した研修会とか研鑽を重ねてみえるというのは重々見せていただいておりますし、理解しております。けれどもそういった公というか、教育委員会のほうで準備する、あるいはいろんなところで用意されている研究会とか、それだけではなくて、日ごろから同じ使命と情熱を持った先生方どうしが共に悩んだり、共感したり、刺激を受け合う、そういう機会を日常的に持ち続けることが大切ではないかなと思います。先日教育懇談会に参加して見せて

いただいたときに、先生がお一人ご挨拶されて、まさにそういった悩みがあったけれども、先輩の先生方に声をかけていただいて今に至ったとか、これからは逆に自分はそういう姿を周りの人に見せていきたいという思いを言われたと思います。そこで改めてそういった同じ気持ちを共有して、刺激し合って頑張るという姿に心強さを感じました。精神的なもので、このように先生方に希望を言うとどんどん終わりが無いような気がして、ただでさえ多忙極まりない先生方にますますプレッシャーとなってしまうのではないかと思うのですが、やっぱり純粋に子どもたちの成長を支えてくださることに情熱を持ってほしいと思っておりますので、教育委員としては聞いた情報を頼りにしながら、先生方の職場環境を少しでも改善とか、あるいは先生方を少しでも支えるようなお手伝いできればと思いながら、希望をお話しさせていただきます。以上です。

(石田委員)

私は言葉の使い方を通して教職員の資質向上について考えてきました。基本、子どもは大人の真似をすると思いますし、大人の中でも先輩方の真似をすると思います。授業など教育の現場で、大切なことを伝えようとしている先生はみえるのですけれども、中には子どもや保護者、教員間のことを気にしすぎている先生もみえるように感じます。子どもに語り掛ける言葉によって子どもの人柄は作られると思います。そこで、時に自分が一生懸命やっている中でも、失言してしまうことがあると思います。そんなときは子どもに対して、自分自身でも私は心がけていますが、素直に「ごめんね」という言葉を子どもにかけていただくことをお願いしたいと思います。そんなことやってるし、ほとんどの先生やってるんじゃない？と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、言葉はその時のその方の心理状況とか環境の状況によって出ることと、ないことがありますので、そういうことを心がけていただくというのはとても大事ななと思いました。そして「ごめんね」という一言があったことによって、先生にとってそれは失敗ではなくて、失言ではなくて、価値ある教育に変換されるのではないかと考えています。成功例を見せ合って、自己肯定感や自己有用感を持ってもらうことも必要ですけれども、失敗例や不適切な言葉を使ってしまったときの、そのあとの先生の対応も大切だと考えています。最後まで子どもと悩み、一緒に考えてくれる、諦めない先生の姿勢から子どもは信頼とか安心というエネルギーをもらうと思っています。私自身もそういう思いはありますし、今、こういう年齢になりましても、先輩方からいただく言葉でそういうエネルギーをもらうことは本当に多いです。今述べさせていただいたことが、実践されるような環境に近づけば、良い雰囲気の良い教育現場、職場が作られると思っています。そしてそれは本当に子どもたちに反映されていくと思います。規則やシステムの見直しで変わる点もあると思いますが、教職員が無理を強いられるような気持ちになるようなら変わらないかもしれないと考えています。多くの子どもたちが夢を持ち叶えたいという意欲にあふれたときは、それを逃がしてはいけないと思っています。それは家庭の子育てでも一緒だと思います。子どもたちが夢や目標に向かって一生懸命になれる快適な教育現場を整え、継続されることを心から願っています。そのためにも先生方が同僚はもちろん、子どもたちや保護者に率直に打ち明けられる雰囲気づくりができるよう、その解決に向けた取り組みを刈谷市にどうぞお願いしたいと思っています。以上です。

(神谷委員)

まず不祥事に関して、今回の不祥事に限らず、対応に苦慮する事案、いじめや不登校などに対して、可及的速やかに情報を隠すことなく、その都度現状や経過を我々に情報として提供していただいております。特に公的機関においては隠ぺい体質や、ねつ造とかそのようなことはあってはいけませんが、今回のこのような情報をつぶさに提供していただいておりますので、私どもとしては安心感があります。決して言いたくないということもあろうことかと思いますが、共有するということがまず前提として考えたいと思います。

そしてその中で私は私なりに教員の資質向上ということについて申し上げたいことがあります。まず、教員に正式に採用される以前の教育実習のあり方についてもう一度、再考を促す必要があるのではないかと思います。具体的な提案としては、大学在学中に実施される教育実習期間をただ単位取得、履修のためだけにするのではなく、実習期間をもっと増やしたらどうかということ。併せて、特に刈谷市の小学校、中学校で交流があるわけですが、その中で、小中学校複数校での教育実習を義務付けるということ。そして単位取得のために留まらず、本人の適性等を教頭あるいは学校長が評価して採用の参考としてはどうかということを考えています。

また、資質向上ということで教員の研修についても私なりに考えさせていただいたのですが、まず、理論と実際は違うということで、つまり座学に留まらず、実践的な人材教育を実施すべきではないかと思います。新任教諭の方については、他校の研究発表会等への出席要請を積極的に促す。つまり小中学校の研究発表会あるいは学校訪問等を通して、学校の現状、また生徒や児童の生の状況等を新任の先生方に見ていただくということ。それから最後に一番大切だと思われることですが、「師」としての責任と誇りを促す、先生として高飛車に上から目線ということではなく、「師」であるという、改めて責任と誇りを植え付けるということ。以上のことをことうゆう機会を通してあえて私の意見とさせていただきます。以上です。

(市長)

ありがとうございました。

一通りご意見をいただきましたが、何か意見はございますでしょうか。

(神谷委員)

ちょっと言い忘れていたことがありまして、教員免許は大前提として取得しなくてはならないですが、刈谷市には刈谷市の正式採用となるための採用試験がありますよね。そこでいきなり正式採用とするのではなく、例えば3か月間、半年間を準採用期間としていわゆる実習のような形にし、校長、教頭等でその人の資質を見るということはどうだろうか。ほとんどの先生は、卒業してから30数年間は教鞭を取られると思いますし、長いスパンでみると、3ヵ月や半年、あるいは1年あたりはそう長い時間ではないかなと気がいたしましたので一つ提案として付け加えさせていただきます。

(市長)

それでは太田教育長、今の4名のお話を聞かれてどうですか。

(教育長)

まず依佐美中学校の不祥事を受けて一番痛切に思ったことですが、大変な問題で保護者説明会にも教育委員会として出席し、説明をさせていただいた中で、もちろん肯定される方はおりませんが、いろんな方から、「こうゆうことは起こったけど、日ごろやってることはよく見てるからね」とか、「依佐美の先生が頑張っているのはよく見ているからね」と随所で伺いました。不祥事が起きた時のためではないですが、日ごろの成果は見えていただけているもので、そこまで自信を失うことなく、子どもに接してほしいなと痛切に思っています。今回の事案は法の違反ですので、懲戒免職は当然でございます。そのあとの対応として、実際にどうゆうことを教員の資質向上に役立てていくかということですが、法に触れるようなことは新聞記事とかを使って、毎月1回必ず職員会議で啓発しております。ただここ数年、全国的に大変不祥事が多いので、文部科学省のほうも抜本的な対策を講ずるために、教員になる前の養成から、計画して実施しなさいということをおさかんに言っております。そんな中、生活福祉課で貧困のために十分に学習ができないという子どもを子ども相談センターに集めて、そこで学習の面倒を見ており、そこへ愛教大の生徒が今ボランティアで8年くらい来てくれております。この取り組みは今まではまったくのボランティアでありましたが、今回それを大学のほうも大事なことだということで、来年から単位として認めるそうで、たくさんの人たちが来てくださることになります。そうゆう経験をやはりたくさん積んでおくこと、心構えとかいろんな具体的な経験をこれからいろんな勉強の中で積んでおくことが、大切ではないかということをお今回の反省を踏まえて、今後考えていきたいと思っております。

私からも最近感じていることを述べさせていただきますと、たとえば教育委員会へ苦情などを受ける中で、一番劣化しているなど感じることは、先生が子どもの発達の段階を少し知らなすぎるかなということ。例えばどうゆうことかと言いますと、幼稚園から小学校1年生に入ってきた子が集会で騒ぐ姿、これはあたりまえの状況です。それを「なんでしゃべっているんだ」「しゃべっているなら出てけ」など理不尽なことを言ってしまったり、5年生が学習していて、ある算数の問題ができない時に「こんなものできんやつは1年生に戻れ」と言ってしまふことがあるそうです。子どもの発達とか成長の中で、今どうゆう段階にあるのだろうかとか、こうゆうことはどう受け止めるのだろうかということ、大学で児童心理を勉強しているのだけれども、今そうゆう子どもの発達とか成長についての理解が少し劣化してきているのではないかということをお一番心配しております。これからいろんなところで伝えていかなければいけないと思っております。

先ほど石田委員が失敗例についてお話をされましたが、私も学校訪問の際に訪問所見を言う時間が15分ほどありまして、そこで私は必ず、自分が若いころ失敗して今反省していることを元に話をしております。それをもっと語ることが、教育長もそうゆう失敗があったのかという先生方へのひとつの安心感になるのではないかとも思いますし、こうゆうことを語っていくことがこれから大事だなということも少し自覚してやっていきたいと思っております。

一度不祥事を起こすと、甚大な信用失墜になりますけれども、一方日ごろの実践の成果がそうゆうものを少しはカバーしていくということをお最近感じておりますので、あまり自信を失うことのないようにやってもらえたらというそんな思いであります。今4人の皆さんから言われたこと

につきましては、校長会等でお知らせして、やっていきたいと思っております。

(市長)

神谷委員が言われた教育実習の期間や実習の内容を変えたらどうかということについて、教育実習期間については、国のカリキュラムとかそういうものがあってなかなか難しい？

(教育長)

難しいですね。安易に長くすると現場のほうも1日の教育活動に支障をきたしてしまうので。要は期間よりも中身に何をさせるかということ。教育実習期間だけでなく、例えば先ほど申し上げた愛教大のボランティアが単位化されることも一つではないかと。

(市長)

子ども相談センターとか、総合文化センター中のフリースペースで行われているハグミンハートのような場で、子どもの相談相手になるという取組みをすることを単位化するというのもどうか。

(教育長)

野田副学長さんの発案でそういうのを一度やるべきでは、さらに単位化するだけでなく、必須単位にして学生に経験させることで、教育実習とはまた別の内容を体験できるようにするべきではということも考えております。

(市長)

私生活を含めた、もっと広い指導ができますからね。

(教育長)

先ほど言ったように教育に対する使命感だとか、喜びとか、そういうものを実感できれば、軽率な不祥事の防止にもつながるのではないかと。

(畠委員)

大学から単位を与えるということで愛教大生がやってみえるということですけど、大学や単位関係なしにぜひ参加したいっていう人は受け入れてもらえるのでしょうか？

(教育長)

それはもちろんいいですよ。

(市長)

どの方でも手を挙げていただければ、ボランティアでやっていただいておりますので、それは大丈夫だと思います。

(池田委員)

今日は教員の資質向上というテーマで意見交換させていただきましたけれども、我々も刈谷の教育委員という、教育に深く関わる者として自覚を持って、教育委員としての資質をぜひとも向上させていきたいと、私たち一人ひとりもいろんなことを勉強して刈谷の子どもたちのために考えていきたいと思っております。

(石田委員)

私は義務教育の子をもった親としてここにいるということもありまして、現場の保護者の方とか、教員の方々とお話する機会がたぶん3人の方よりも多いと思っております。それをどう役立てようかなということは日々考えているわけですし、保護者だからこそ、そこで得る情報もありますので、そういうものを率直に、嘘無く伝えていきたいと思っております。中にはお話を聞いていると、明らかに自分中心の意見もあるのですが、そういう方にも耳を傾けて、なぜそういう自分中心の意見が出てしまうのかということを考えながら働きかけをしています。そんな中で、教育委員は保護者の味方でしょと言われたことがありました。そこでそうじゃないと、公平に見たいという姿勢がありますとお伝えしました。私は学校にいる滞在時間が長く、教員の方を見ていますと、みんな同じ人間で、先ほど言ったように失敗することもあります。なのでそうやってお話されてきた保護者の皆さんには教員の方々の良さをお伝えできるように、これからもしていきたいなと思っております。

(市長)

皆様、今日のご意見を賜りましたことを心から御礼申し上げます。

以上をもちまして、本日の会議は終了となります。本日はどうもありがとうございました。